



地域支えあいニュース

第10号

発行日 平成29年6月

綾瀬市生活支援体制整備事業プロジェクトチーム

(事務局:綾瀬市社協 地域福祉班) 電話:0467-77-8166 ファックス 0467-79-1812

E-mail info@ayase-shakyo.or.jp

(仮称)第2層協議体意見交換会を開催しました。

綾瀬市生活支援体制整備事業における(仮称)第2層協議体のモデル地区(寺尾南・上土棚・吉岡)の意見交換会が平成29年6月4日(日)綾瀬市役所にて開催されました。

今回それぞれの地区における今日までの取り組み、疑問点や課題、他の地区に聞いてみたいことを模造紙にまとめ、発表を行いました。

寺尾南地区

第3回目の定例会では、地区社協と民生委員をゲストに呼んで、現状の活動や課題をお話いただきました。そこからメンバーが知らなかったことを聞くことができ、大変よかったです。次回は学校関係者や子ども会などの関係者をお呼びして話を聞く予定です。

この地区は、学校や社会福祉施設などの社会資源が豊富な地域です。とにかく縦割りの地域を横につなげる協議体を目指し、今後もさまざまな団体や機関をお呼びして、情報を収集し、仲間を増やして自分たちのやっていることを多くの人に知ってもらうことことから裾野を広げていきたいと思えます。

上土棚地区

子ども会の若いお母さんが入っていることによって、子ども会の情報が入りやすくなっています。この地区でも「人がいない(特に災害時あんしん袋を配ってくれる地区社協のメンバーからの意見)」という問題が出され、「子供が、足りない人員を補う役を担ってくれないだろうか?」という意見が出ました。その他にもひとり暮らし高齢者のゴミ捨てを通学路を通る子どもたちがやってくれないだろうか?」など、子供がマンパワーとして活躍できる地域を目指していきたいです。今後は、連携や実態把握など、出来ることから少しずつ取り組んでいきたいと思えます。

吉岡地区

発足式の時から、「地域を行商するパン屋の通る時間を調べてみよう」「免許返納後に困る。今から対策が必要」など、まさに地域の情報が飛び交い、2回目に向けては「高齢者の困り事を聞いてみよう」ということで、メンバーが老人クラブ等に向き、その結果を2回目に持ち寄りました。実態把握と情報収集に力をいれ、ネット販売の情報を持ち寄るなど、毎回次の定例会に向けての宿題を出して臨んでいます。宿題が負担になることは避けなければなりません、メンバーが地域情報に対してアンテナを張ることを意識するようになって地域を見る視点が変わりました。



オブザーバー さわやか福祉財団 長瀬さんのコメント



今日の会合は皆さんが行ってきたことを確認し合う会、2層協議体のあり方を検討し合う会です。この2層協議体の大きな目的は多様な主体の情報共有と出来ることを探すこと。地域にある情報は大きな情報も小さな情報もあり、知っていることもあるけれど知らない情報もたくさんある。それをみんなで持ち寄り共有すること。協議体の本質をきちんと理解し、既に取り組んでいる皆さんの活動は本当に素晴らしいと思えます。

「何をやるんだ!」から「何が出来るんだ?」という次のステップも3地区とも既にできていました。これからはこの情報を多くの人に発信し、地域の意識を変えていくこと、環境を作っていくことが重要となります。これからもじっくり自分たちのやり方を見つけていきましょう。今日は、本当に良い勉強になりました。